

よっ葉だより

2024年
9月16日号
No.805

～地産地消～
いのちと健康暮らしを守る
よっ葉生活協同組合

2024年 気になる米の状況

令和5年産の米は気候により、品質低下・収穫量減少傾向がありました。

それに加え、インバウンド効果での外食産業による米の需要が拡大。日本中で米が無いと多くのメディアで報道されました。実際、よっ葉生協でも7月以降、多くの品目が販売休止や、量目変更、または代替品を用意して対応させていただきました。

品質が落ちると、B品になり安くなるのでは？と思いますよね。しかし、斑点米やくず米を多くはじくことになる為、予定より多くの米を使うことになり金額的にはあまり安くないのです。だから、販売できる量も減るといふ悪循環になったのが令和5年産の米でした。

例)白米5kg 1袋作るのに、普通なら玄米5.6kgで作れるところ、玄米約6kg必要になる。玄米60kgの金額は決まっている為、作られた袋の数が少ないと割高になります。

では、今年の米はというと・・・

今年も昨年に引き続き高温が続く、稲の生育にとっては大変な環境です。それでも全国的に豊作傾向とのこと。しかし、昨年と比べ降雨量はありましたが、各地で線状降水帯が発生し、田んぼの冠水などが起こりました。また、暖冬の為カメムシが全国的に増え、斑点米が増えることが予想されます。

8月29日 和氣ふぁーむでの視察

7月2週から販売を中止していた和氣ふぁーむのコシヒカリ。9月1週から新米をお届けしたい！と前もって話があり、刈り取りを8月20日辺りから始め、9月1週から無事、組合員にお届けができました。栃木県塩谷町は日中の気温は30℃超えても夜温は24℃前後。昨年も米の等級が良かったので、今年も品質的なことは安心していました。

今年の米はお盆まではとても順調でしたが、お盆過ぎは雨が続き、8月22日、県北での線状降水帯による豪雨では、用水路の逆流が起



「和氣ふぁーむ 稲刈りのようす」

り田んぼ中にゴミが多く入り込みました。また、登熟期の稲の穂は、強い雨が降ると倒伏しやすくなります。倒伏すると重なり合った所が光合成出来ず、登熟が進みづらくなります。更に水に稲穂が浸かると芽や根が出てくることもあるとのこと。張っていた水を抜き対策をしています。乾燥しすぎると胴割れがしやすくなるので、雨が降らないうちに少しずつ刈り取りを進めている段階でした。

収量がどの位になったのか今後も確認していきます。

登録米をやらせていただいている和氣ふぁーむは、数量の把握、報告を定期的にしていただき、年間通して登録米は必ずお届けできるようにきちんと管理していただいている産地です。年に2回、田植えと稲刈りの農業体験も行っています。ぜひタイミングがあれば参加していただき、生産者の方との交流し、圃場を見にきてくださいね。

米余りといわれていた近年ですが、主食である米に翻弄され、令和の米騒動といわれるまでに。こうした状況だからこそ、産直生協であるよっ葉の組合員は、今後も栽培基準の安全、量的な安全、そして、価格の安全を守りたい。また、それができるのが産直という関係性です。今年米の先物取引が始まり、業者による高額での米の買い集めがされています。しかし、和氣さんは産直を一番に考え、業者を断り、よっ葉生協を優先してくれました。

生産者の為にも登録米に登録していただき、量的な安定を確保して、今後も米を再生産できる価格を生産者と一緒に考えていきたいと思

(商品部 間中)

○なぜ今、米の値上がりが起きているのでしょうか？

生産量に対して、消費量が増えている結果、新米までつながらなかったからです。異常高温気象によって、米の収量も減っていることもあります。毎年秋になると、生産費用に合わない価格設定で作れば作る程、赤字額が増えるといわれ、飼料米への補助金があり、作付けも増えています。農水省は今回の米不足は、部分的な問題であり備蓄米を出す程ではないと言っています。その影響は、フードバンク、子ども食堂に米が届かないでいます。備蓄米を放出して、新米を貯めればいだけで、古米、古々米を増やす必要はないでしょう。スーパーの米が無くなる一方、米販売店の米は新米までつないでいるところもあります。米の相場は変動します。一定の量を契約栽培してもらっているところと、相場が安い時に買い入れるので、価格の違いが出てきます。高くなった分、農家にお金が余分に入っているわけではありません。農家は早くに手放していますので、途中のどこかで高くなっているだけです。

○米の定期登録で1年間安心してお米を食べましょう。

新米の時期に組合員が定期登録することで、よっ葉生協の1年間の数量がでます。その量を優先的に農家に確保してもらいます。今年も、最後まで定期登録の方には届けています。作る農家も、食べる私たちも、安定して安心できるやり方です。1年間試してみませんか。

(顧問 富居)

営農企画、有機特殊肥料製造工場見学会に参加して

2021年にみどりの食料システム戦略が策定され、有機農業耕地面積0.6%（2020年）から25%（100万ヘクタール）まで拡大する目標が掲げられ、国全体として有機農業を促進していく機運が高まっています。小麦、大豆等の国産有機穀物の拡大に向け、よつ葉生協の国産有機小麦パン（タカサゴ）の有機小麦をつくっている(有)営農企画（北海道比布町）で、今年の7月から有機特殊肥料工場が稼働しました。日本有機加工食品コンソーシアムに入会の企業・団体からの参加者



(100名以上)とともに見学をしてきました。有機加工食品コンソーシアムとは、有機農業の発展と有機食品市場の拡大を図るために、利害や資本を越えて、集い、協働する産官学一体のプラットフォームです。

見学した工場は、地域の未利用資源を活用した循環型の工場です。今後有機穀物を拡大するために必要な有機資材の安定供給に向けたモデル施設です。営農企画 取締役専務の今城さんより、工場についての説明を伺いました。



見学した工場は、ガラスハウスの印象ですが、高設ハウスと同じフィルムで作られています。最初に穀物をバイオ炭化する設備の見学をしました。こちらは発酵が終了した堆肥に混ぜるための炭化した穀物(バイオ炭)を作っています。バイオ炭は肥料として地中に戻るため炭素固定となりカーボンクレジット化が出来るそうです。

隣の施設は堆肥を作る施設です。バイオ炭化の際に発生するボイラーの熱は熱風にしてこちらの施設に送り、堆肥の発酵の促進に利用しています。見学時には2週間発酵させた堆肥が置いてありました(堆肥からはほとんど

においが出ていませんでした)。

見学中、大きな攪拌用の機械が動いているところを見ることができました。発酵中の堆肥を1日1回(2往復半)攪拌しています。季節にもよりますが発酵に3~4週間かかるそうです。1回に出来上がる量は約1000トン40ヘクタール分になります。年に12回のサイクルで製造を予定しており、約10,000トン500ヘクタールをまかなえるそうです。

堆肥の原料は10種類使っており、主にキノコ廃菌床と鶏糞を使っています。原料となるものは、地域の未利用資源を有価物として買い取り、活用しています。今年度作っている分は、9月からの営農企画の小麦に使っていく予定です。来年度からは農家の方にも販売することを予定しています。



今城さんの考えは、農家が新たに有機栽培を始めるには、まず肥料がないと難しい。だから肥料から有機栽培を広げていこう、と言うものです。そのためにも肥料価格を安くできるように、バイオ炭化によるカーボンクレジットの収入、未利用資源の活用、工場自動化による人件費の削減などを取り組んでいます。

今城さんは、「自分たちが第一号、日本中にこの規模の工場ができて、有機栽培がどんどん広がって、有機農作物を消費者の皆さんが買えるようになってほしい。」と熱い思いを話してくださいました。消費者が求めやすい価格は普及に必要ですが、生産者が生活するには利益も大事、両立するために生産にかかるコストを下げようとする今城さんの取り組みはとても前向きだと感じました。

今城さんは生協のことも、「みんなが食べられるオーガニックでなければいけない」という強い思いがあります。経費をかけないで安く消費者へ。そのために生協はとても良い仕組み。ぜひよろしくお願ひします。」と話されていました。

消費者である私たちが何をを選んで買うのか。

誰もが有機農作物を手にとれる社会になると嬉しいです。

(理事 小田切)

(肥料工場見学会のあと参加者を対象に行われました学習会の一部を紹介します)

営農企画の有機特殊肥料の特徴から考える資源循環型農業の意義と課題

9月3週くらでも紹介しました

北海道農業研究センター芽室研究拠点 池田成志氏

有機栽培を行う上で、信頼できる肥料を選ぶことは大切です。家畜糞尿を使った堆肥では未処理、未熟が問題になります。家畜に使われた抗生物質や薬剤耐性菌、牧草や穀物に使われる除草剤(特に日本では登録されていないクロピラリド)は、それらを食べた家畜の堆肥に残留します。営農企画では、信頼できる地域の農家から鶏糞やきのこの廃菌床を買い取り、2回の熟成を経て、もみ殻くん炭を混ぜ込んで化学物質の分解を促進し、微生物性の向上が期待できます。

下水汚泥の肥料化をめざす国の政策がありますが、環境ホルモン、家庭や工場から排出されるマイクロプラスチック、難分解性汚染物質(PFAS類)、化粧品や美容品、抗菌剤など、ありとあらゆる物質が含まれており、その種類や量を把握することができないため安全とは言えません。(理事 三輪)

知って納得 0.05%の希少な安心をお届け



《生産者 営農企画 今城さん親子》

よつ葉食パンに使用している国産有機小麦の生産者は、北海道で大規模な有機小麦栽培に取り組む営農企画の今城さん。ポストハーベスト(収穫後農薬)及びプレハーベスト(収穫直前農薬)不使用、広大な大地で大切に育てた、顔の見える安心な小麦粉をお届けします。

10月1週くらでもご案内

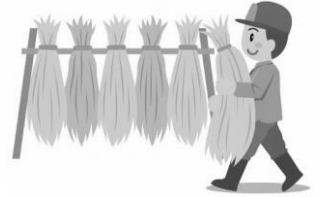
3枚入り
423円内
栃木県・タカサゴ
国産有機小麦使用
よつ葉食パン3枚
半斤(3枚) 320円(税込346円)
2層以上ご注文で送料 310円(税込335円)
乳・小麦・米 お届け日を含め2日

424円内
栃木県・タカサゴ
国産有機小麦使用
よつ葉ミニ食パン
1個(9.5cm) 398円(税込430円)
乳・小麦・米 お届け日を含め2日

参加してみませんか

<お問合せ よつ葉生協 組合員組織部 TEL 0120-07-1613>

地産地消～守ろうふるさと のこそう緑の大地～ 上三川農業体験②「稲刈りをしよう！」



6月に田植えをした羽二重もち（品種名）の稲を、鎌を使って刈り取り、「はざがけ」にします。お昼ご飯に、皆でつくたてのおもちも食べましょう！

日時：10月19日（土）10：00～14：30（受付9：30～）

会場：有機農業技術支援センター（栃木県河内郡上三川町下神主 233-1）

参加費：組合員 大人（中学生以上）500円 子ども（小学生）200円
一般 大人（中学生以上）600円 子ども（小学生）200円

未就学児は無料

定員：15組 程度

駐車場の都合上、場合によっては抽選にさせていただきますことがあります。

託児：なし

締切日：10月4日（金）

主催：よつ葉生協



さくら

歴史の街喜連川を歩こう！ 日本一小さな大名って知ってる？

実質わずか5千石なのに格式は10万石の大名並みで参勤交代なし。諸役なし！！の特別待遇の喜連川。ボランティアガイドの案内で巡ってみませんか？

日時：10月22日（火）10：00～12：00（受付9：45～）

会場：さくら市喜連川町

参加費：無料

定員：15人

託児：なし

締切日：10月4日（金）

主催：文化委員会



宇都宮

初心者のための食育講座

子どもの未来を守る！

あなたのキッチンで食育で診断してみませんか？

日時：10月24日（木）10：00～11：30（受付9：45～）

会場：河内生涯学習センター 和室（宇都宮市中岡本町 3221-4）

参加費：無料

定員：10組

託児：なし

締切日：10月4日（金）

主催：宇都宮北委員会

*お子様連れOK、皆で見守りながら



伊勢崎

健康セミナー

電磁波の何が問題か ～健康への影響は？～

講師：大久保 貞利 電磁波問題市民研究会事務局長
カネミ油症被害者支援センター共同代表

日時：10月26日（土）13：30～15：30

会場：伊勢崎市 緋の郷 円形交流館

（群馬県伊勢崎市昭和町 1712-2）

参加費：1000円（資料代含む）

定員：50名 お申込み先着順

申込み・問合せ：ぐんまピピネットワーク 代表 服部
TEL 0270-21-8245（留守電なし）

よつ葉のサークルです！

<こんな方にお勧めセミナーです>

電磁波に不安をお持ちの方・電磁波で辛い思いをしている方・子ども達への影響が気になる方・対処法を知りたい方

内容：私たちは身の回りに増え続ける電磁波の中で生活しています。電磁波過敏症を知っていますか？ある日突然発症してしまった人達の辛い生活をご存じですか？今こそ電磁波に対する正しい知識が必要です。専門家の話を参考に、一緒に考えてみませんか。

※当日のお願い

- ・香りに敏感な方がいます。ご配慮ください。
- ・会場内では、携帯電話やスマホの電源をお切りください。

「参加してみませんか」申し込み後のご案内はメールになります

ご参加が決定した方へのお知らせは、郵便料金の値上げ等の事情によりメールでののご案内に変更します。それに伴い、以下ドメインのメールを受信できるように設定をお願いします。ただし、お電話で申し込まれた方へのご案内はこれまで通り郵送します。

event@yotsuba-coop.jp（迷惑メール設定解除、もしくは受信設定）

文化イベント情報

■各イベントのお問い合わせは、直接主催者または連絡先にお問い合わせいたします。

小山

●イベント 第14回オーガニック講座 農薬や合成化学物質による生態系や人への影響

—持続可能な農業における今後の課題—

講師：木村一黒田 純子 先生
環境脳神経科学情報センター副代表 医学博士

●日時 10月5日（土）13：30～15：00（開場13：00）

●会場 小山市役所6階 大会議室

●主催 小山市有機農業推進協議会
（事務局）小山市役所農政課環境創造型農業推進係
TEL 0285-22-9269
Mail d-nosei@city.oyama.tochigi.jp

●共催 小山っ子の未来を守る会

●内容 世界の動向は、化学農薬や化学肥料を減らし、持続可能な生態系を維持した有機農業に向かっている。無農薬・無肥料の自然農法や有機農業を進めることは、地球と子ども達の未来に繋がっている。また、プラスチックの過剰使用は農業においても、重大課題で、これからの対策が求められている。

●申込み QRコードまたは事務局までご連絡を



ご存知ですか？！

くらら掲載の料理レシピはよつ葉生協ホームページで検索できます。



①スマホ、PC、タブレットなどで「よつ葉生協」を検索。ホームページ内、右上の☰本線マークを選択してください。



②選択後、上記の「組合員の方へ」をクリックし、「クッキングレシピ」を選択

③すべて☑をクリックすると「産直おかず」や「温活おかず」、素材などに分かれていますので、クリックしてみてくださいね！



“もっと見やすく！！”

10月1週より人気のレシピコーナー「産直おかず」と「温活レシピ」がQRコードから直接ご覧いただけます。



クッキングレシピでは、くららでおなじみの食材を使ったレシピが盛りだくさん。毎日のお食事にぜひご活用ください。

「よつ葉生協は、栃木県生協連と栃木県との包括連携協定に基づき、県の広報に協力しています」

～栃木県選挙管理委員会からのお知らせ～

11月17日(日) 栃木県知事選挙



自らの意思を反映させる大切な機会です。**貴重な一票を無駄にせず、必ず投票に行きましょう。**当日投票できない場合は、**期日前投票**を利用してください。

県内で行われる各種選挙の情報をXで発信しています！



ご意見・ご感想をお寄せください。お名前と組合員番号をご記入の上、共同購入注文書またはお手紙でお願いします。掲載の方には粗品をプレゼントいたします。※掲載するにあたって事前ご連絡をすることはありませんので、ご了承ください。

東日本大震災・東電原発事故での支援金 募金報告 (9月1週分)

ご協力ありがとうございます。組合員さんの温かいお気持ちが今週も寄せられています (単位:円)

放射能から子どもを守る募金 (900番)	8,400
震災孤児を支援する募金 (910番)	25,500
「有機農業と国産種子」募金 (920番)	12,100
合計	46,000

共同購入注文書裏の「10品以上の記入欄」に該当番号と数量をご記入ください。WEB注文の場合は、左側「企画商品・募金」内の「募金関連」をクリック。一口100円の募金になります。

●編集・発行よつ葉生活協同組合 小山市栗宮 1223

☎0120-07-1613 TEL 0285-45-9100 FAX 0285-45-9101

HP <https://yotsubacoop.jp/>

よつ葉だよりメールアドレス yotsubadayori@yotsuba-coop.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

■文化イベント情報掲載希望の方へ
組合員が関わっている文化情報です。(直接よつ葉生協とは関係ありません)
原稿締切は掲載希望月の前月1日(ご不明の点がある場合はお問い合わせください)。掲載する週を希望することはできません。掲載は無料ですが、スペースの都合上掲載できない場合がありますので、ご了承ください。

■各イベントのお問い合わせは、直接主催者または連絡先にお問い合わせいたします。

